

南松山病院 渇水(1994年7月～)対策探訪記

尾崎 光 泰*

インタビュー 鈴木 満**

平成6年の夏は酷暑が到来し、全国の至る所で深刻な渇水状態が発生した。透析治療は水が命であることは論を待たない。

3ヶ月以上も時間給水が続いた四国の松山市についての報道が多く、貴重な経験を踏まえて渇水対策にどのように対応せねばならぬかを教えて頂きに、10月25日松山市の南松山病院を訪問した。尾崎院長を筆頭にスタッフや事務部門の方々、加えて患者会の代表者までが快く対応して下さり、内情をつぶさに教えて頂くことができた。ここに、心から感謝したい。

渇水対策の鍵は、施設で井戸を掘り水の確保をする以外に道はないという結論だった。対応策としては、全員で工夫するというものであったが、解決に向けた患者会とボランティア活動には特記すべきものがある。活動的な院長の機敏な処置も印象的であった。

以下に、その全容を報告する。

*仁友会南松山病院院長

**日本透析医会専務理事

—— 何からお伺いしていいかわからないんですけども、今までの実態を含めた経過と対応されたこと、それから行政の対応、大きく分けて3つぐらいについて教えて頂ければと思います。

(尾崎) 経緯の方から簡単に説明させて頂きますけれども(資料1)、まず大きく湧水と言われたのは7月の15日あたりからで、うちの方も対策に入りました。7月の15日から10月22日の8時間給水に至るまで、この間をだいたい経路を追っかけていったのですけれども、市の水道局の給水制限を一番左の枠にとりまして、その横にうちの上水道関係ですね、先程見ていただきました受水槽・タンクあたりの、どのように水を確保していったかということがここにあります。それから井戸水、そのあとに工事関係、それからその欄に医師会とか市の方の対応がここに、それで当初は7月の15日あたりから湧水で近々断水に入っていくということに決まりまして、7月の26日から断水に入りまして給水時間が16時間、夜の10時から朝の6時までと時間が決まったんですが、以前にですねとにかく水を確保しなければならないということで我々が一番懸念したのは断水になって水が出ないときに果して水を市の方から貰えるかどうか一番心配だったのですけれども、これについては医師会との話し合いですね、病院に対しては浄水場の方にとりにさえ来てくれれば24時間配水で給水してあげましょうということで決定してましてこれで一安心したのですけれども、それであと輸送体制ということで先程見て頂きましたけれども2トン車ですね、あれを3台用意いたしましたですね、それで当初の断水に入ってしまったというふうな状況だったのです。それで16時間給水、それから15時間給水、いよいよ12時間給水。このあたりに仮設タンクなんですけれども、あれを一つが大体8トンなんですけれどもそれを4個作りまして(写真1)、とにかくここに

水を貯めていこうというふうな方向をだしたわけなんです。8時間給水の時点では、丁度8月1日から8時間給水だったんですけれども、丁度この日がうちの方が救急日にあたっておりました医師会と市との話し合いで救急日に関しては一応1トン位の給水車は出しましょうと言うことだったんですけれども、もちろん全体の使用量からいきますと1トンでは話にならないですから、この病院の用意した給水車と併せて大体11トンぐらいは給水したんですけれども、その後病院の方の事故がありまして、事故というのはカランを断水時間中にひねって水が出ないということでそのままカランをしめずに開けっ放しになっていたんですよ、それで一晩どんどんそこから水がでまして、急遽このトラックで走りまわって20トンぐらい確保したといういきさつがあります。

当初、断水に入ったあたりからとりあえず井戸をやっていこうということで最初打ち抜き井戸を16m程掘ってみたんですが、これは残念ながら水がでませんで失敗に終わりました。第2段の打ち抜き井戸試削棒で、これはボーリングに入っていくので試削も兼ねてたんですけれど、16m掘ったのですが堅い岩盤に当たりましてこれ以上はだめだと、やるとなればボーリングしかないということで8月8日あたりからボーリングを開始いたしました。一応この時点で、8月17日の時点でボーリングを終了致しまして一時間あたり大体4トン位の水量が確保できるというような結果がでましたからそれで直ぐに水質検査に出したんですけれども、結果が出るまでかなり待ってたんですよ、その間に今度は8時間給水からいよいよ5時間給水と言うことになりましたですね、この8時間給水の時点ではなんとかタンクに貯めながら病院の中で自給といますか、なんとか水を回していけてたんですけれども5時間給水となると全然話になりませんので、とにかくだいたい60トン位の水が不足

資料 1

南松山病院 湯水対策

	市 水 道 局	貯 水 ・ 給 水 タ ン ク	井 戸 水	そ の 他
7月15		病院給水車準備完了 (2 t × 8 台)		
19				企業局職員と公認業者による 給水抑制の実施
23	6:00			浄水場にて24時間給水可能との 連絡あり。
26	給水制限に入る		打抜き井戸(16m)失敗	
27	16時間給水			
	21:00			
28	15時間給水			
29	9:00			
29	12時間給水	貯水タンク完成 (8 t × 4 基)		
30	〃			
31	13:00			
8月1	8時間給水	病院給水車にて5回(10 t) 及び救急日医療用水1 t、 合計11 t 給水	打抜き井戸試作掘り (16m失敗)	善意の水が各地より届く ミネラルウォーター30 t 届く
6	〃	病院給水車にて10回 (20 t) 水漏れの為給水		
8	〃		ボーリング開始	
10	〃			
17	〃		ボーリング終了 (水量4 t / Hr) 水質検査依頼	
18	〃			
20	〃			
21	16:00			
22	5時間給水	らくれんタンクローリー5 回(55 t)及び病院給水車3 回(6 t)合計61 t 給水開始		
23	〃			2系統より市水利用の許可あり 申請する
24	〃			
28	〃		水質検査結果 井戸水処理計画書提出	
29	〃			
30	〃			
9月2	〃			
5	〃		工事内容決定	
6	〃		工事発注	申請変更
8	〃			
9	〃		工事開始	RO濃縮水をMRI冷却水へ 転用開始
22	〃		水処理装置(井水、市水タ ンク)及び配管工事完成	市水用タンク完成
24	〃		新館トイレなど使用開始	
25	〃	井戸水の使用状況等により 給水回数調整開始	旧館トイレなど使用開始	
10月1	〃		洗濯機使用開始	
12	〃			
13	〃			市水工事完成
14	〃			市水引き込み工事完成
15	〃			メーター設置及び受水開始
22	14:00	らくれんタンクローリー による給水終了		
	22:00			
	8時間給水			

資料2

渇水対策に対する要望

当院での1日の使用量は、平均210 t (5月～6月)でしたが、節水努力により現在135 t になっております。〔36%節水〕

受水槽への流入量は、1時間当たり平均約17 t で、現行の8時間給水ですと、 $17 \text{ t} / \text{h} \times 8 \text{ 時間} = 136 \text{ t}$ が何とか確保されております。

しかし、5時間給水となると周辺地域の短時間集中使用等による水圧低下の為、1時間当りの流入量は15 t 以下になることが予想されます。(現在でも午後8時～午後9時にかけては、7～8 t / 時間しか流入していません。) $15 \text{ t} / \text{h} \times 5 \text{ 時間} = 75 \text{ t}$ の確保が、やっとなだと思われます。 135 t (1日必要量) - 75 t (1日流入量) = 60 t となり、1日約60 t の水が不足することになります。

現在36%の節水を行っており、更に節水努力をしておりますが、健康人でなく重症・軽症はあるにせよ体に障害を持つ入院患者を260名、透析患者を176名、お預かりする病院として、これ以上の節水は健康弱者である患者さんに対して病気治療上も悪影響を及ぼす恐れがあり、無理があります。

不足する60 t の水の確保に対する対策として、2 t の給水車を準備していますが、延べ30台の出動が必要です。現在3台ありますが、1台の車が10往復しなければなりません。1台に運転手・助手と2名乗り込み、2名×3台 = 6名の職員が、毎日、毎日10往復することになります。どこの医療機関でも同じでしょうが、人員に余裕のあるはずがなく、本来の病院での業務に、更に肉体労働が荷せられます。炎天下での作業を考えると、職員の疲労には大変なものがあります。また、疲れた体での10往復の運転には、常に交通事故の影が忍び寄っています。

このような状況でありますので、

- ① 人名に係る医療機関に対しては、8時間給水の持続。
- ② 5時間給水であれば時間当りの流入量を増大させる為、2系統からの取水許可。
- ③ 公的機関による水の輸送体制の確立。

この3点を切にお願いする次第であります。何とぞご配慮の上、よろしくお願い申し上げます。

すると5時間給水の場合ですね(資料2)。
何とか輸送体制をとらないと、ということで、こちらにおられる患者さんの会の会長さんで小笠原さんとか、松山市の内部障害者を守る会というのがあるんですけどもそちらの方の会長さんとかがいろいろ走り回ってくれましたね。



写真 1

——— それでこの難局を乗り切ったわけですか。

(尾崎) これねここでね市の方へいろいろ言うたんですがね、対応がなかなかいうまくかんですよね、今度は医師会の方へ言ったんですけど「来たら上げる」ということなんですけど「来たら上げる」と言うても60トンのものを「来たら上げる」じゃなかなか行けんでしょう。これは患者さんに頼るしかないということで小笠原さんとここで会議開きましてね、患者さんらみな集まってもらって会議を開きまして、そして小笠原さんに何とかやってくれと、小笠原さんが内部疾患の会の会長さんの高塚さんという人に連絡して高塚さんらがいろいろやっていたいたんですよね。これがね成功に導いて、

これはですね、最初から言いますと7月の段階ですよ、給水、断水が始まった時点で、松山市の12の透析病院で患者会を作っていて400名程おりますけれども、我々透析で水を使っているのにこんな断水が続いていったらどういう事になるか、一遍これは各病院に問い合わせ

調査しなければいかんということで各病院全部毎日お電話しましてそれぞれデータですね、何時間の給水でやっていけるんだろうか、完全断水になった場合の処置はどうするか、そういった事を一応問い合わせしていったわけです。そして断水が続いたのでは対応策が全くないということが解りましてね、それから水源を確保するためなんとかやってみようということで、高塚会長がこれまた足を棒にしていろいろな所を歩いたんですが、初めは市議会の方に行きましたが、全く対応がなされていないわけなんですよね、とにかく市の方は渴水対策本部に我々の会の顧問をしております池本議員がおりましたので水源の方は確保するという確約を得ておりました。24時間水源は医師会の方と同じように「水源は確保するので取りに来てくれ」と言うけれども輸送手段はどうかということで、「輸送手段は無い、それはそちらの方でなんとかしてくれ」ということでしたので、これはいかんということで高塚会長は走り回りましていろいろな方面、もうタンクローリーを使っている所、鮮魚店から消防署まで行きました。消防署に行ったら患者さんの中にもけっこう消防の方がおられますんで、それやったら協力せんといかんということになっておったんです。ところが県がもう一遍そういう状態になったら調査せんといかんということで医師会の方に行ったら、医師会の方がそれは大丈夫だ「それは医師会が責任をもってやるから」ということで帰されてきましたんで、県の方が「そんなことなら別におたくが心配せんでもよろしいんじゃないか」ということでいいようにあしらわれましたんで、これではいけないということで我々自身がなんとか探そうとやっておったんですが、とにかく鮮魚なんかの運搬のタンクローリーなんか行きますと保証金があるんだというふうな事もありましてね、とても話にならないと、高塚会長が車を運転してまして前にタンクローリーがあ

りましてこれが酪連のタンクローリーやったんですよ。丁度その止まった時に運転しておったのが知り合いの方で、今治の人ですが、これがまたなんと天の巡り合わせかどうかわからないんですけれどもそういう事がありまして、酪連というのは愛媛県酪農業連合協同組合あれはこの県でもあるんでしょ全国・全農があって全国・全酪連があるんですかね、県の組織ですかね。牛乳、乳製品を農協関係で扱っているという会社ですけど、その前に一度酪連さんの方にも電話でお願いはしておったんですが、そのときはいろいろな方面のさしつかえがありますので一つの所にこれをお貸しするということがあればスーパーとか取り引き関係もありますので酪連さんは、そちらの方から言ってこられた場合にもこれを断わることが出来ないの一般的な貸し出しは出来ませんというお断りの言葉を頂いておったのですが、もう一遍言ってみいというので高塚さんが直接酪連の会長にお電話しまして、涙ながらにこれを訴えましてね、「そういう事なら是非ともやらさせていただきます」、ということで快く提供いただいたんですよ。それがまあぎりぎり8月22日に間に合うという段階で。

—— ああ、そうだったんですね。

(尾崎) 60トンね2トン車3台で運ぶんじゃない大変ですよ。とても無理ですよ。それが10トン車ですからね。これやってもらったんでね、これで助かったわけですよ。

—— 都市部でサテライトだったらとても出来ませんですね。松山地区ではビル開業の透析施設はないのですか。

(尾崎) 松山ではないですね。ビル開業で透析の医院というのはないですね。

—— 東京なんか多いもんですからね。

(尾崎) そうですね。そんなことで今治から5時に起きましてその人、広瀬さんという運転手さんなんですけどね、それから今治から松山ま

で1時間半かかりますよね、松山市の浄水場に行かれていっぱい積んでそれから病院に来るのが9時頃ですね、それから今度は4回5回と運んでもらうわけですよ。その足らん部分を2トン車が行くんですよ。それであの人が家に帰り着くのが7時か8時位ですよ。あの人ね今治交響楽団のトランペット奏者なんです。こないだの23日に演奏会がありましたね、これのための練習もせないかんでしょ、帰ってから練習、大変だったと思いますよね。

—— 本当にこれは皆さんの善意ですね。

(尾崎) 善意ですよ。

—— 御協力で可能になったわけですね。

(尾崎) 55日間休みなしですからね。子供の運動会には毎年いっとったんですが、朝起きたときに患者さんの顔が険にね頭に出てきてね、知らん間に車に乗っておりましたよ、いうようなことで毎日毎日休み無しでやって頂いた、これはもう神様ですよ。そういう方がおられたということが有り難いことと思いますね。その間に我々の所が井戸水をやってたんですね。5時間給水になるということで医師会の方から要望があれば出してくれということで、うちから提出したものがあるとは思いますが、大体使用量とかです。うちが210トン程使ったのを一応節水はしたんですけど135トン位と(資料2)、読まれた方が速いかと思われそうですが、その60トンがこれで酪連さんのタンクローリーで賄えたというような状況です。

—— ほっとしますね。他の施設はどうされましたか。

(尾崎) 日赤はわりと井戸がありましたんでよかったんですかね。60トン位は確保できたんじゃないか。しかし僕が聞いたる県病院の先生からは透析時間をとにかく給水時間中に合わせたということを言われたですね。だいたい4時間透析の状態になっとるから、4時間がほとんどですからね、5時間の給水の時間内にそれを終

えてしまうおうと、その前後多少はなんかオーバーするけれどもまあとにかくその時間にすると、だから透析は昼から始めると、いうふうな形でそれで夜間透析は中止していますと。

—— 機械は十分あったんでしょうか。

(尾崎) それですね、とにかく僕が聞いたのは県病院ですが、とにかく夜間透析は止めて、給水時間に集中してやると、そういう形でなんとか切り抜けるんですよとっておられたんですね。5時間の給水だったらなんとかいけるけど5時間以下になったら絶対やっていけませんよとその先生が言っておられたんですけども、たまたま山形県立病院では給水タンクがですね、高架水槽が病院全体ともう一つは健康増進センターというのともう一つは周産期センターとかいうのがあるんですけど、それらが一つの敷地の中にあるんです。それぞれが大きなタンクを持っておると、でそのタンクを周産期センターと人工透析部とが一つのタンクを利用しておるんだというような事でわたしの所のタンクは相手あまり使わんのです。「だからうちに大半まわして貰えるんだ。」というような事をその先生が言っておられたですね。なんとか5時間給水さえあれば凌いでいけるというような話でしたね。夜間透析は出来ないという、夜間透析は中止しました、という事。民間病院でも夜間透析を中止しとったところがあるのではないかと思います。

夜間透析の人に聞きますと、夜間透析やめたら仕事をやめなければいかんというようなことを聞きましたので、これはいかんどんな事があっても夜間透析を守れと、いままでやとった時間的対応を崩したらならんと、みんなそれに向かって努力をしたということですよ。しかし、酪連さんがなかったらちょっとできなかったでしょうね。夜間透析に水を使うと翌朝の昼間の透析が出来なくなるんですよ。

—— そうですね。

(尾崎) だからタンクローリーで補充をして頂くということでどないときりぬけられないことなんです。

—— 例を私の病院にとって恐縮ですが、100床弱のセンター病院なんですけど、サテライトビルを含めて6つありましてね、患者さんが700人おいでになるんですけど、この水量を計算させると月3000トンになるんですよ。ROでやって7割捨てちゃいますから、ROで7割捨てる理由でいうのは、結局そのROのフィルターの劣化の関係がありますんで、7割捨ててしまっているんですけど、こちらはどうでしょうか。

(尾崎) うち3割弱ですね、捨てとったのは。

—— そうですか

(尾崎) 回収率が比較的良いんですかね。

—— 8月には行って高松ですとか、福岡ですとかいろいろと電話しましたら、わりと公的な施設はそれなりに対応が、行政もほっとけないとみえて、県立病院の所の水道管のパイプは締めないでくれ、そういう話を聞いたりしたものですから。

(尾崎) 広島もそういうふうで、広島の市民病院ですか病院の近くの方は、そこは締められないから24時間水が出るんです。とか言うもったですね。

—— そういう話とか、香川のある施設にうかがったら4トン車で業者に運んでもらっているけれども、1回1万5千円払っている、そんな話を。

(尾崎) すごいね、

—— それはほんとに大変だなと思ってましたんですけど、名簿等見させていただくとやはりこちらの病院が民間では患者さんをたくさんやられていますので、ご迷惑もかえりみずお願いして今日ははせ参じたしだいで、いままでわたしも院長先生ももちろん会員に入ってくださいていますけれども透析医会の災害時対策というのは、地震とか火災、台風というもので渴

水対策というものが全然頭に無かったものだから、そちらの方のマニュアル等をつくらなくちゃいけないかなと思ひまして。

(尾崎) そうですね。

—— 大変なご苦労でしたが、現状はどうですか。わたし今日あそこのダムに行ってみてきました。

(尾崎) 松山市のダムでしょ。

—— ええ、小さいですね。

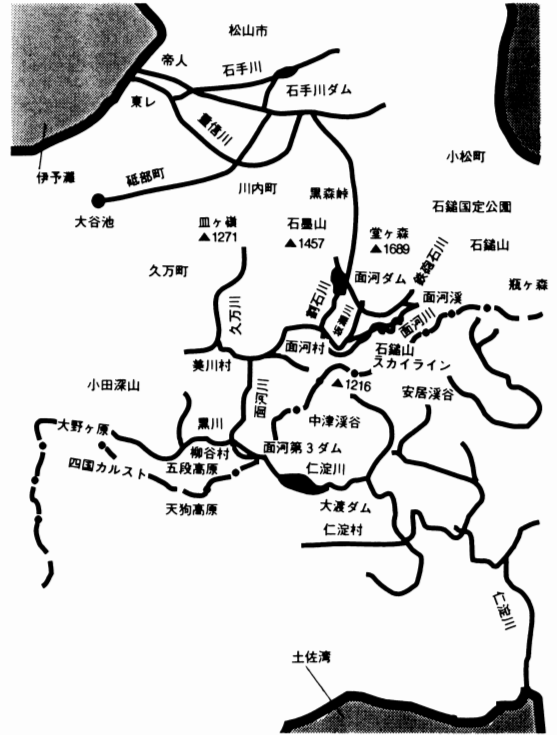
(尾崎) 石手川ダムというんですが、ほんの溜め池位の感じですよ、ほんとそうですよ。

—— 運転手さんの話だと10%位に溜っているんじゃないかと。

(尾崎) そうですそうです。ここに面河川のダムがあるんですよ。このダムというのがこれの3倍以上あるんですよ。石鎚山がここにありまして石鎚山の南側の斜面に降った水は全部石鎚市の面河川に流れるわけですよ。そこへ流れる坂瀬川、鉄砲石川、いろんな川あるんですけども、それをそれぞれここから引いてこの中に入れておるんですよ。こっちに皿ヶ嶺という大きな山があるんですけどこれ四国山脈にあるんですけど、この南に作った水は全部ここへくるんですよ。こっちの方に流れるんですよ。これは久万いうこっちの方に行く川ですけど、それから面河川がここで合流してそれからこっちへ行くんですよ、仁淀川にね。ここにね四国カルストの大きなのがあるんですよ、黒川いうんですけど、この川を合わせた所に面河第三ダムという大きなのがあるんですよ、これは満水ですよ、これがいよいよ3分の1位しかなかったんですけど、こないだ10月の1日に学会がありましてね、高知で、我々はこれを川沿いに下って行ったんですけどね、満水なんですよ、ほんと高知県は充分水あるんですよ、考えてみたら愛媛県の水を全部あわせていくんですよ。それでここは3分の1位、帰りに寄ったんですけど、あそこは満水になっとるんですよ。面

河ダムというのはここに書いてあるんですけど(資料3)

資料3



いろいろといきさつがあるんですよ、今の知事の前前の知事の時これを作ったということで、この水を松山市の方へ送って農業用水と飲み水に使おうということで、高知県に水利権がありますから、高知県に許可を得て、作ったんですよ。ところが次の代の知事がこれを工業用水に売ったんですよ。帝人、東レとかの会社にですね、そうしたら高知県がおこりましたよね。「工業用水に売るくらいならなんもやるんじゃないか」ともめましてね、その時に造船やいろんなことやってる坪内という著名人が中に入って「なんとかこらえてくれ」ということで手を打ったんですよ。それが今そういう形で続いているんで、坪内さんに言わせれば「あれは飲み水もろうてきたんや、知事がかってに売ったんや、だからこれは当然飲み水にせにゃいか

ん、住民パワーで話をもってかな話にならん」という話があったんでね、これはいよいよ使えない道はないですよ。それで面河ダムから大きなこんな1000Φですからね、ここへ流れてきてる。ここへ僕行ってみたんですけどね、それはもう1 mの管から1日に10万6千トンの水が流れてきておるんですよ、10万6千トンというたら14、5万トンあれば松山市水はOK、飲み水はなんとか、なんとかちょっと制限するくらいでいけるんですよ。20万トンあれば充分いけるんですよ。そういうふうな状態なのが全部工業用水にいておるんですよ。大体10万6千トンというのはどのくらいかないのを高知から帰りにのぞいて見たんですけど、みつからなかったんですよ。あとで2万5千分の1の地図で、もう一遍黒森峠の方から上がってみましたありました。それを見たらですね、やはりこっちの方は水が少ないんですよ、20万トン位毎日流れこんどる感じでしたんですよ。しかし、これを農業用水かなんかで分けられるとなったらこれはとてもだめだな、だから次の対策を講じなければ後また何かあるかわからんというふうに思っておるのが今の状態なんですよ。だから透析をやる病院というのは市から水をもらうという全面的に口を開けて、口に入れてもらうというようなやり方じゃなくて自分で水を確保する対策が一番大事だと思いますね。しみじみ今度は思いましたね。だから県立病院が給水5時間以下になったときには、いつでもこっちが引き受けてあげるよというようなとこまで行けということで少し余裕をもっているんですけどね。今120トン位ですかね出るのが、120トンまでは出るのかな、RO水なんかも、もう機械なんかの冷却水とかいろいろ他のものに捨てるやつはいろいろ利用してますが。

—— MRIの方に冷却水返還されてるようですし。

(尾崎) 捨てるのはもったいないんで、それを

あっちこっち回そうかというつもりで。

—— 雑排水ですとか、MRIとかROのその濃縮水というのはかなりコップに入れてみますと汚れてるそうですけどもゴミがいっぱい入って。

(尾崎) いやそういうふうなのは水質を調べたんですけどね。

—— こっちの方は水はいいんですね、東京の方はだめですね。

(尾崎) 直接市水を入れとるんですか、ROの機械にフィルターで濾してないんですか。

—— もちろんフィルターで濾してますけどその後の水ですよやっぱり。

(尾崎) ROに入れる前にフィルター入れとるんですよ。当然ね、そしたら全然きかないんでしょうね。松山ではひとつも悪くなくて充分使えますがね。

—— 関東の方はだめですね。

(尾崎) しかし、元の水は飲める水を入れるわけでしょ。

—— でも、うちの方には、造り酒屋なんかありませんから、水はもともと悪いんじゃないでしょうか。

(尾崎) かなり幅があるんですよ。だけど市の水道がはいっとるわけですから、市の水道というのはそのまま飲める水ですからそれ以上綺麗になっているでしょう。

—— コップに入れたら飲む気がしないようですよ。

(尾崎) ああそうですか。とれる割合が違うんですよ。7割と3割ですよ。それとですねフィルターなんかで大阪と東京都と名古屋と福岡とでのフィルターの持ちが大阪、東京が半分くらいです。水か悪いんですね。

—— 浄水場の技術と源水が悪いと思うんですよ。

(尾崎) 井戸を掘っても、100 m以上掘ってここは鉄が多いですから除鉄マンガン装置、軟水

装置でやっておいて、いつでも準備を進めておいたほうがいいかもしれませんね。今度つくづく思いましたが、いつどうなるか、これからまたあるかわからないですよ。

——— それでそれに対する対応をこちらに書いていただいたわけですが、8月1日は患者さんのシャワーですか(資料4)。

資料 4

各給水時間に対する対応

断水対応

- 7月15日 院内温水対策委員会発足
ポリバケツ・節水シールを各詰所へ配布
- 7月19日 企業局職員と公認業者による給水抑制実施
- 7月20日 「女姫」を全女性用トイレに設置

12時間給水対応

- 7月27日 風呂をシャワーのみに変更

8時間給水対応

- 8月1日 シャワーを週1回に変更(木曜のみ)
洗濯機使用中止(手洗いのみ)
携帯用手洗い器使用
職員のみ食器変更
冷房時間変更 9時~21時
扇風機使用
膿盆使用の検討(段ボール箱に切り換え)
透析の水洗時間の短縮
中材部門の外注(おしぼり・タオル類他)
職員水筒持参
病棟炊事場の使用中止

5時間給水対応

- 8月中旬 『内部疾患を守る会』の御尽力によりタンクローリー→確保
- 8月22日 患者様用食器変更
ミネラルウォータークーラー設置(病棟・外来)

緩和対応

- 10月1日 洗濯機を使用可に
- 10月22日 シャワーを連日にもどす
患者様の食器を元にもどす
病棟炊事場の使用可

(尾崎) はい、そうです。フロがですね、フロを使いますと1回浴槽に溜めますよね、その次の人が入る時にどうしても全部捨ててしまいますから、これはとにかくやめようと、シャワーにしようと、まず12時間給水になった時点でフロをやめシャワーだけにしたんです。さらにこの8時間給水になってからは週1回だけにしてくれと、木曜日は比較的水の使用量が少ないもんですから、その日に限りシャワーを使ってもらいました。あと洗濯機も中止とか、食器なんかもやむなく全部使い捨ての食器に変更したんですよ。冷房時間も短縮してその代わりに扇風機を入れまして多少でも補うような形をとったんですけれども、それから中材の方で外注に出せるようなものは全部外注に出すと、洗濯などですね、婦長は膿盆をダンボールにした、ちょっとめんくりましたけどね、最初は。

——— 水洗時間の短縮はどのくらいに。

(尾崎) 今今は水洗時間は残り90分でしてたんですよ、それを60分にしました。

——— 30分も短縮されたんですね。タンクローリーの稼働で22日に食器がまた元に戻ったという意味ですか。

(尾崎) そうです。これは当初は職員の食器だけだったんですが、5時間給水になった時はこれはもうやむをえないということで使い捨てにしてもらったんですよ。ほんとに必要最低限といただけますか、必要最低限の中でも医療の水は充分確保するという事なんです。

——— さきほど伺ったお話では、医師会が一応太鼓判を押したということでしたが。

(尾崎) 無理でしょうね、水を運ぶこと自体ですがね、これは市のほうも無理だったんですね。結局タンクローリー10トン車位の単位で動かんと、あれ以上のタンクローリーはないんでしょ。

——— 松山は浄水場は4ヶ所ですね。松山市医師会に電話をしたら、4ヶ所あって3ヶ所には医師会用のタンクみたいのを置いてあるなん

て話でしたが。

（尾崎）それは松山市の給水車です。

—— 松山市の給水車ですか、タンクというよりは、浄水場に行けば水が貰えるということになるわけですか。

（尾崎）いつでもあげるあげる言うたって向こうはそれで対応したと思いますけど、60トン運ぶということは大変ですよ。どうにもお手上げですよ。

—— 行政の対応はやっぱり患者さん達が團結してくれないととてもどうにもなりませんでしたが。

（尾崎）どうにもなりませんね。そうですね、まあ最終的にはいろんな話になりますとね、まあ道後温泉も税収の面からいえば大事なんだと、だから病院とどっちが大事なんだと言うてもこっちも大事なんですよと観光事業も大事なんですよ。おたくだけに水を回すわけにはいかん、というようなこともね本音の部分でもちらっと言うわけですよ。これは命とそういうことを比較の対象になんかとても考えられんことをね、平気で市の人も言うのと、それではこまりますよね。

—— やっぱり松山市の水資源の確保が小さかったということなんでしょうね。

（尾崎）これまでの経緯がね、ここへ作ったときに、ここから引っ張るとい話がありましたでしょ、そのときに松山市の市長が社会党だったんですよ、知事が自民党だったんですよ、それで結局こんなやるか、というようなことでほんと、そんなものがあるんじゃないかと思うんですよ。

—— 川下行きましたら、草が生えてましたね。重信川という、水がやっと動いているような、またひどいですね。

（尾崎）全部カラカラです。水はまったくない。こっちはよく流れとるんですよ、こっちは。一時期はどこ見てもすくなくとも重信川は石ころだらけで、はしからはしまでどこ行っても水は

なかったですね。そんな時期がしばらく続いて、ついこないだの台風からですよ、ところどころ水が少したまりだしたのは。ところが、ところがですよ、松山市の中にある田んぼや小川があるでしょ、あれは満々と流れとるんですよ。

—— きれいな水が流れてますよね。

（尾崎）とうとうと流れとるんですよ、それはこっちからもらっておるんですよ。農業用水が確保されているんですよ。面河ダムから来てますからね、とうとうと流れているんですよ。我々はそれを見ながら断水ですからね。これは余談ですが、工業用水回している所があるんですよ。その県の工業用水の管理事務所みたいなところがあるんですよ、そこへ行ったらそのところから10万6千トン出ているんですよ、水がここから来るんですよ、湯水のカラカラの時にねその事務所に入って行って、ちょっとお伺いしますが、いうて入ったのですが、その所長さんやったかあわててしまって、「わかるとるんですけど法律によってこれはもうお分けするわけにはいきませんので」、「そういうのを聞きにきたわけじゃあないんですよ。あそこ流れとるのはどのくらい流れとるんですか」「あれは10万6千トン」「そうですか」言うて外にでましたら水をまきおったな、芝生がほかの所は枯れとるんですけど青々としとるんですよ、「芝生もきれいですなあ」言うて、帰ったんですよ。丁度NHKに会いましてね、そこで言うたんですよ、「実はねNHKから聞きましたね、この水見に来たんですわ」そしたらおそらくね県の方へ、県の事務所ですからね、電話したんじゃないですか、NHKが写真取りに行ったんですからね。

—— 7時のニュースでやったのそれですか、松山の透析施設の湯水でいう。

（尾崎）6月はほとんどテレビ見る時間がなかったんですけどね、それで知事がね、はよう高知県知事にね、飲み水の方へ面河ダム水を回して

くれるように話してくれいうたらええ、いうたんですけど行かんのですよなかなか。それで関係ないと思いますけど、僕はそこへ行ってはあ大したもんですね帰った後、NHKが写真を取りに行ったその晩ですが、愛媛県の知事が9月の4日に高知県知事を訪問すると、水を貰いに行くと言うことが決まったとその晩ですがね、それで僕はなにも言うてないんですが、おそらくひょっとして所長がNHKが写真取りに来ましたよ言うようなことがひょっとしてね、それまでに南松山病院の尾崎というのが、あれはテレビにどんでんましましたでしょ、名刺見るなりもうあわてとるようだったですね、そんなことで早くこっちが行って給水5時間にならずにすればいいんですけど。もうどろ水ですよ、行ってみたら魚がおるだけで、池を掃除したら池の下に穴がいておりますよね、その中に葉っぱのくさったようないっぱい入ってるでしょ、それを飲んでから面河の水を貰うという話、そんな馬鹿なことをしたらいかんいうて、エンドトキシンもどンドン上がるからいかん言うたんですけれども、それは言うただけの事ではあるんですけど、やっぱりこれは知事が対応してちゃんとやらなきゃいけないですよ。

—— 9月25日に井戸水を使い始められたわけですか。

(尾崎) そうです。

—— これで55トンは数回に減ったわけでしょうか、タンクローリーの給水は、

(尾崎) タンクローリーの給水は結局井戸が完成してしまったら要らなくなったんですよ。

(写真2、資料5)

—— そうですか。工事の進展に伴って。

(尾崎) そうですそうです。全部完成してタンクローリーここで10月15日に終了。

—— そうすると先生の水対策の結論というのは、先程伺いましたように透析施設は自らの使用の水量に対する対策を平常時に講じていな

ければならないというのが結論でしょうか。

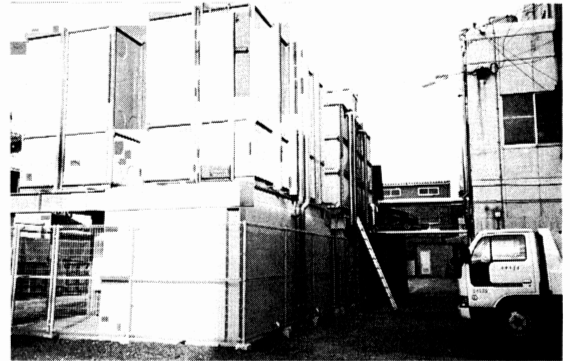
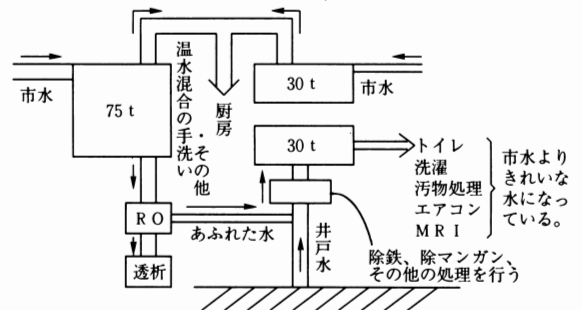


写真 2

資料 5

井戸水は、トイレ、洗濯、汚物処理に35t、エアコン(全館用)に20t、MRI冷却水に5t使用します。



(尾崎) そうですね、それが一番強いでしょ、強いと思いますそれがね。こうなったときには、少量であった場合は、そりゃタンクローリーで運べますけど、小さな黄色いので運べますけど、何十トンとなった日にゃとても出来んでしょ、市の方も何十トンいうのを東京都のような所であっちもこっちも何十トンも運べるわけがないですから、やっぱりもう自分で作っておくべきだと思いますよね。

—— それにはやっぱり具体的に井水になりますか。

(尾崎) 井水ですね、井戸水ですね。井戸水をちゃんと検査してそれに対応する浄化装置を作っておかないと。

—— しかし井水を禁止されているような地区もあるでしょうからね、例えば新潟なんかは

プロパンガスが出てきちゃうんで掘っちゃいけないことになっているんですよ。

（尾崎）そうですか。

—— 地盤沈下しちゃうんですよ。

（尾崎）そりゃこまったですね。

—— ですから海水から飲料水を取るような方法に、政府の方針変えてもらわないとちょっとこまるんですがね。

（尾崎）へえ、そういう所あるんですか、それは大変ですね、どこか川でもあるんでしょうかね、その川からでも引ってこれるようなお金をだして病院のそういう浄化施設を作るというようなことでもするわけにはいかんでしょうかね。

—— ちょっと不可能でしょうね、特に民間病院はそういうことは許されないんじゃないですかね。

（尾崎）先生さっきおっしゃっておられたように、ビルで開業されておられるというような所では、どうにもなりませんね、掘ることも、掘ってかまわない所でも掘ることもできない。

—— 掘る土地がないですからね。

（尾崎）だからうちなんかは、今回で井戸水でもどちらでも使えるような状況になってきたということなんですよ、だからほんとに水がなくなれば井戸水をROの中に直接入れることにもなるし、上水道が十分あるときには、上水道を使えるしということにはなったということなんですけどね。だけど井戸掘ったらいかんということになると大変困りますよね。それだったら県かなんかが対応してそういう病院に、例えば面河ダムから水を流してくれるとか、ああいうふうなものをどのくらい金があるか知らんですけど。

—— 対応策の中の音姫ってなんですか？

（尾崎）若い人の20代、30代の女の方がトイレに入ると用をされる最中は音がするんで音を消すんですよ。ボタンを押すと音だけでるんです

ね。

—— ああ、そういうのがあるんですか。

（尾崎）それを全部のトイレに付けたんですよ。

—— 排尿音の防止器具というふうにかえたらいいですね。

（尾崎）そうです、外に音が聞こえんように、だからこれで二度流しをするですよ、ね女の方は、それが一度になるということで、少しでも水の節約をとということで全てのトイレに付けたというようなこと、安いでしょ。1台1万5、6千円ですね。

—— そんなにするんですか。

（尾崎）でもまあしれとるね。ほんとは官公庁が先に付けるだろうといわれたんですが、うちが早くつけましたから取材にも来られたりしましたし、官公庁よりこっちの方が早かったの。

—— しかしこれ、お役所だったら扇風機だけ回しといてもいいかもしれませんが、病院はそういうわけにはいかないですからね。夜の9時から12時間というのはつらいでしょうね。こちらやっぱり相当蒸しますんでしょね。

（尾崎）暑かったですね、9時にきれたらそれから地獄みたいな感じですけどね、透析室というのは特に機械がみんな熱を出しますからね、ほんとうにサウナ風呂におるみたいなのかいいながら出勤したことがありましたですね。みんなが水を運びますからね、患者さんがそれを見ましてね、ああ、あれみたらほんとうにもう無駄は出来ないと、あまり文句を言うたらいかんという気持ちをみんながもってもらった。みんなが協力してくれたというのが、とくにね事故で水流したというのがあったでしょ、あの水漏れが朝でした。朝方なにかあったのかなというんで外見たらタンクローリーで水の確保に必死な状況で、朝早くからあんなことさせるようじゃいかん、みんなで我慢しようよ、というような気持ちを持ってもらったので、あの水漏れ事故は一

回だけでよかったんで、みんなそういうふうに協力してくださったというのが一番良かったということですね。

(ここで、みんな揃って写真を撮る)

—— 貴重なお時間ありがとうございました。

